線虫単一神経細胞での部位特異的応答の 蛍光イメージング法による解明

2017年度

設樂 久志

			主	新聞	文	-	要	山田	
報告番号		Z	第	号	氏	名		設樂	久志
主論文題 線虫単一	目 :	泡で	の部位	立特異的応答の	蛍光イ	・メー	ジング	去による解	明
 (内容の要 単一神経経 ク質リン酸(マウスやハニ い。しかした 告担い、また 在神経明らか(第1章は) 	音) 細胞の情 とや遺伝 ながら、 Hendrich た神経細 AIYに着 こした。 諸言で	報子生近 xs 胞目 単	理現種線 は 制で 虫 の 種 経 紙 で 、 神 経 制 で 、 神 経 制 で 、 和 の 和 の 和 の の 和 の の の の の の の の の の の	ナプスを介した によって行われ の役割が明らか おいても単一神 12)。本論文で 所的な機能が重 の蛍光イメージ	局るに軽は要ン 報知の時にこれ胞にあ手 切り	なれまさの記述の法にの	報びたかで報びたかでがでがでががががががががががががががががががががががががががががががががががががががががががががががががががががががががが	、それに伴 経細胞の局 、線虫での した神経機 れに伴う行 ている感覚 れら神経細 述べ 線虫	う細胞内でのタンパ 所的な情報処理は、 報告例はほとんどな 能理解の重要性が報 動出力に重要な役割 神経細胞AWCと介 抱の部位特異的な応 の神経機能を明らか
にしてきた従来研究について説明し、続いて本研究の目的について述べた。 第2章では、介在神経細胞 AIY に注目し、AIY の膜電位応答と Ca ²⁺ 応答の部位特異性に関して 述べた。AIY はにおい情報を受けると神経細胞の一部分である神経線維でのみ Ca ²⁺ 応答を示す特徴 を持つが、膜電位イメージング法により Ca ²⁺ 応答を示さない細胞体でも膜電位応答を示すことが初 めて明らかになった。線虫神経系では主に Ca ²⁺ が膜電位を変化させるキャリアであると考えられて きた。従って、これらの結果は膜電位と Ca ²⁺ の部位特異的応答性の違いだけではなく、膜電位と Ca ²⁺ 応答がいつも一致するわけではないことを示した。									
第3章でに である cGM に対して、 の の	は、 感覚 異なる を 動 を し 、 術 割 を 担 う	神経 神経	細胞A 同して近 を してが を の で 修 を 示 唆	WC 内において 述べた。AWC は こ示すことが、愛 らかにした研究に 感受に重要であ は cGMP の上昇 っする。	、にお におい を異体を まなか~ る神経 が観察	3い刺激 い刺激 いったた ショーたた ジョーク ショー ショーク ショーク ショーク ショーク ショーク ショー ショー ショー ショー ショー ショー ショー ショー	激による を受けた た先行研 め、cGN も端では、 この、	細胞内セカ とき、にお 究で示され (IP イメージ 、刺激に対 ことは単一者	ンドメッセンジャー い感受とにおい順応 ている。しかし、実 ジング法を用いてそ して一過的に cGMP 申経細胞内で cGMP
第4章は約 局所での神絶 続関係が明ら 性について話	結言で、 経機能を らかにな 義論した	第2 明ら って	・3章 かにす いる点	で明らかにした ることの重要性 を挙げ、他の生	線虫単 を述~ 物では	一神総 べていぶ	経細胞の音 る。また ない単一	形位特異的た 、線虫の神 神経細胞の	3応答を例に取り、 経細胞の少なさや接 情報処理解明の可能 以上

SUMMARY OF Ph.D. DISSERTATION

School School of Fundamental Science and Technology	Student Identification Number	SURNAME, First name SHIDARA Hisashi
T :0		

Title

Region-specific responses in single neurons of Caenorhabditis elegans.

Abstract

Neural information processing in single neurons *via* signal transduction in synapses, expressing proteins and phosphorylation is performed region-specifically. Theses region-specific functions have been revealed in various animals; *Caenorhabditis elegans* are hardly reported. Recently, one research showed that it is important to understand the local functions in single neurons of *C. elegans* (Hendricks et al., 2012). We, therefore, reveled region-specific functions of AWC sensory neurons and AIY interneurons with various imaging techniques.

In Chapter 1, researches focusing on local functions of single neurons in various species including *C. elegans* were overviewed. Then, the purpose of this thesis was introduced.

Chapter 2 presents a study on a relationship between region-specific membrane potential and Ca^{2+} changes in AIY interneurons. Previous reports showed that several sensory stimulation induced Ca^{2+} responses in neurites of AIY, which is a part of the neurons, but not in soma. However, a voltage imaging technique revealed that odor addition changed membrane potential not only in neurites, but also in soma. This result indicates that Ca^{2+} and membrane potential is different region-specifically in AIY.

Chapter 3 presents a study on cGMP, one of the major second messengers, responses to odor stimulation in AWC neurons. In AWC sensory neurons, cGMP is known to have important roles for odor sensation and adaptation as a second messenger. Interestingly, these previous results indicated that odor stimulation would induce the opposing cGMP behavior for each function. Visualizing cGMP with a genetically encoded indicator revealed that cGMP changes showed a transient decline at the edge of AWC, but a gradual increase in the other part. This result indicates that cGMP responses in AWC are compartmentalized.

In Chapter 4, I argued that the importance of focusing on region-specific neural functions of *C. elegans* from the results in Chapter 2 and 3. In addition, the future perspectives were also discussed.